

(別記)

## 2020 年度長洲町農業再生協議会水田フル活用ビジョン

### 1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本町の農業は、土地利用型農業の水稻・麦・大豆の作付を基本としながら、近年ではミニトマトを中心とする施設園芸野菜や露地野菜の生産も増えてきている。

耕地面積は 677ha（水田 565ha、畑 112ha）で、水田面積 565ha に対して、291ha（約 51%）の基盤整備が完了しており、約 200ha（約 35%）の暗渠排水が近年整備されている。

主食用米の需要が減少していくことが見込まれており、新規需要米等の作物への転換を促進することで、耕作面積の維持を図っていく必要がある。また、麦・大豆の単収が県平均と比較して低い状態であるが、暗渠排水が整備されたこと等により単収の増加が期待される。

現在、担い手と耕作農地のバランスが取れている状態であり、農地集積等を通してコスト削減・作業効率の向上を図っていく。また、農家の高齢化による離農数も増えているため、担い手への農地集積等により水田面積の維持を図っていく必要がある。

### 2 作物ごとの取組方針等

町内の約 565ha（農業的な生産を行わない水田 35.7ha を含む）の水田について、適地適作を基本として、産地交付金を有効に活用しながら、麦、大豆、米粉用米を転作作物の主体として位置付け、地域の需要に応じた作物の振興を進め、作物生産の維持・拡大を図ることとする。

#### （1）主食用米

需要に応じた生産を行うため、農業者の経営の観点から、生産目安を基にした主食用米の生産を推進する。また、熊本県の水稻奨励品種である「ヒノヒカリ」、「森のくまさん」、「くまさんの力」、「あきまさり」、「やまだわら」の栽培を主とし、「売れる米作り」の推進を図る。

#### （2）非主食用米

##### ア 米粉用米

今後の新たに取組が進められると予測される米粉用米についても、多収性品種「ミズホチカラ」の作付を推奨し、需要量に見合う生産量を確保していくため、生産の推進及び拡大を目標とした取組みを進める。

##### イ 新市場開拓用米

多収性品種「やまだわら」の作付けを推進し、業務用米及び輸出用米等の作付け拡大を図り、農家経営の安定と所得の増大を目指す。現時点において、供給が需要に追いついていない状況にあり、さらなる増産が見込めるため産地交付金を活用し、生産基盤の強化、生産面積の拡大を図る。

### (3) 麦、大豆、飼料作物

麦に関して、当町の気候条件及び耕作地条件に適している「シロガネコムギ」「チクゴイズミ」、パン用品種「ミナミノカオリ」での作付けに取り組む。

単収の増加が課題となっており、農業者の所得向上に向けたインセンティブとして、産地交付金を活用し、担い手による収量増加に対して支援を行うことにより、生産性の向上を目指す。

大豆に関して、主に良質多収量品種の「フクユタカ」での作付けに取り組む。

麦と同様に単収の増加が課題であり、地域の基準単収も熊本県全体と比較し、低い水準にある。収益の向上及び収量の向上を目指し、産地交付金において、担い手の収量に応じ交付額に差を設けることにより、生産意欲の向上を図る。

飼料作物に関して、小規模ではあるが耕畜連携の取組みが行われており、農地の保全に寄与している。そのため、産地交付金を活用し、今後も継続して連携の取組みを支援する。

さらに、産地交付金を活用し、麦、大豆、飼料作物に対して、二毛作による作付けへの支援を行うことで、振興を図るとともに、水田利用率の向上を目指す。

### (4) 高収益作物（園芸作物等）

転作水田においては、販売を目的とした野菜等が作付けされている。小規模農地での野菜の生産においても、玉名農業協同組合に共同で出荷を行うことにより、生産者の所得の向上及び、耕作放棄の発生防止等に非常に大きな役割を果たしている。

このようなことから、これまでと同様、産地交付金において園芸作物等への支援を行いながら今後作付面積の維持・拡大を図る。

また、ミニトマトを中心とする施設園芸作物においても、当町の農業を支える重要な役割を担っているため、併せて支援を行い振興を図る。

### 3 作物ごとの作付予定面積

作物	前年度の作付面積 (ha)	当年度の作付予定面積 (ha)	2020年度の作付目標 面積 (ha)	2021年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	304.1ha 1,584.4t	294.0ha 1,532.0t	294.0ha 1,544.0t	294.0ha 1,532.0t
飼料用米	0.0ha	0.0ha	0.0ha	0.0ha
米粉用米	0.3ha	0.5ha	0.5ha	0.7ha
新市場開拓用米	3.2ha	3.5ha	4.1ha	3.8ha
WCS用稲	0.0ha	0.0ha	0.0ha	0.0ha
加工用米	0.0ha	0.0ha	0.0ha	0.0ha
備蓄米	0.0ha	0.0ha	0.0ha	0.0ha
麦	297.4ha	310.0ha	320.0ha	310.0ha
基幹作	130.2ha	134.0ha	144.0ha	134.0ha
二毛作	167.2ha	176.0ha	176.0ha	176.0ha
大豆	31.5ha	46.0ha	48.7ha	50.0ha
基幹作	3.6ha	5.3ha	2.7ha	5.7ha
二毛作	27.9ha	40.7ha	46.0ha	44.3ha
飼料作物	1.5ha	2.0ha	2.0ha	2.0ha
基幹作	1.5ha	1.5ha	1.5ha	1.5ha
二毛作	0ha	0.5ha	0.5ha	0.5ha
そば	0ha	0ha	0ha	0ha
なたね	0ha	0ha	0ha	0ha
その他地域振興作物	22.5ha	23.0ha	25.0ha	24.0ha
野菜	18.1ha	18.5ha	20.0ha	19.5ha
その他				
・たばこ	4.4ha	4.5ha	5.0ha	4.5ha
・				

※主食用米の作付予定面積（2020年度）、目標値（2021年度）において使用した単収は

521kg/10a

※主食用米の2020年度作付目標値において使用した単収は

525kg/10a

#### 4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	前年度（実績）	目標値
				2019 年度	2020 年度
1	麦・大豆	担い手収穫加算 （基幹・二毛作）	大豆 （基準単収を上回った 生産面積）	5.9ha	7.0ha
			大豆（収量）	68.2kg/10a	(120.0kg/10a) 88.0kg/10a
			麦 （基準単収を上回った 生産面積） ※水稲裏作の麦は除く	125.6ha	134.0ha
			麦（収量）	416kg/10a	302.0kg/10a
2	麦・大豆 飼料作物	二毛作助成 （二毛作）	大豆（取組面積）	27.3ha	46.0ha
			麦（取組面積）	167.2ha	176.0ha
			飼料作物（取組面積）	0ha	0.5ha
			水田利用率	124.1%	(128.09%) 125.0%
3	野菜、花き・花木、 果樹、雑穀、その他 作物	地域振興作物への 助成（基幹）	野菜等（取組面積）	22.1ha	(25.0ha) 23.0ha
4	新市場開拓米 （輸出用米を含む） 米粉用米	新規需要米におけ る多収性品種の取 組	新市場開拓米 （取組面積）	3.2ha	(4.1ha) 3.6ha
			米粉用米 （取組面積）	0.3ha	0.5ha

※ 必要に応じて、面積に加え、取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定してください。

※ 目標期間は3年以内としてください。